練馬新聞

〒176-0012
練馬区豊玉北5丁目16-12,
サンライズ豊玉
練馬新聞社
TEL 03(3993)5171 FAX 03(3993)5666
振替口座 00150-0-39675
購読料 月700円
Eメール medianerima22@nifty.com

西京信用金庫
本店 新宿区新宿四-三-一〇 電話〇三-三三五六-七一一一(大代表)
練馬区内支店 練馬・江古田・北町・大泉 富士見台・氷川台・石神井台

73
練馬新聞創刊73周年

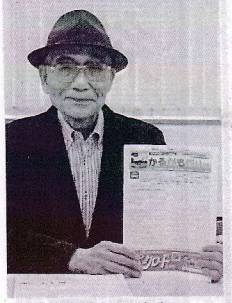
この人に聞く

シリーズ

石神井まちづくりの会 代表 下河秀行氏

地域の問題は長く継続してこそ成果が見えてくる

「石神井まちづくりの会」が設立20周年を迎えた。石神井公園駅周辺まちづくり協議会からスタートし、住みよい石神井を目指し、この間、石神井の交通問題、土地利用、まちの活性化、地域コミュニティを柱に、課題に取り組んできた。同会が発行している『かるがも便り』も記念号として、これまでの同会の活動の振り返りや、ゆかりある方々からのメッセージを8頁だてで紹介している。代表の下河秀行氏に話を聞いた。



下河秀行代表

「かるがも便り」記念号を発行

――20年間の活動を振り返って、どのような感想をもちますか。

下河 地域の活動を継続していく上では、続けることが大事だと思っています。様々な困難や、会員の家庭や健康面での事情もあり、難しい局面もありましたが、乗り越えてきました。なぜなら、地域の問題は、短期間で解決しない事が多い。長く継続して初めて、ある程度の成果が見えてくるものです。

――活動の中で例をあげるとすれば何でしょう。

下河 石神井まちづくりの会は、練馬区の都市整備部が、平成12年9月に立ち上げた協議会が元ですが、その時の最大の課題は交通問題でした。当時は、練馬高野台駅から大泉学園駅までの間、〝開かずの踏み切り〟が9か所あったのです。解消するために区と協議を重ね、岩波区長に提言書を提出、平成19年に事業承認が下りました。西武池袋線の高架化に伴い、平成23年に6か所、27年に3か所の踏み切りが無くなりました。

石神井公園駅南口のパークロード商店街の問題もありました。狭い道路の両側に店舗が並び、車椅子の通行は困難です。その区間の前後は道路幅12㍍以上あるのに。10年前に署名活動から始めて都議会に陳情書を提出、意見付採択がなされました。しかし、その後の動きが無いので、都の第四建設事務所に理由を問いただしたりしています。敷地のセットバックが必要になりますから大変なことはわかりますが。

他に、バスが通らなくなった商店街に広い幹線道路232号線が必要か、26階建ての再開発ビルは当初の地区計画に基づき11階建てにすべきではないかなど、様々な課題があります。

――区の施設などで配布されている『かるがも便り』ですが、どのような目的で発行しているのでしょうか。

下河 地域の情報を皆さんに伝えることが目的です。地域といえば町会の回覧板がありますが、あれは行政から一方的に流れてきている情報です。『かるがも便り』は、現在8人いる会員と定例会を開き、意見を交換し、私が文章にまとめ、レイアウトをしています。平成12年の設立時から発行していて、区と協働で制作した8回分を除き、この3月発行で75号になります。残念なことは、年4回の発行ですから、どうしても情報が遅れます。月刊ならばスピーディーに伝えられるのにと思うことがあります。

――石神井を愛する下河さんのお気に入りの場所はどこですか。

下河 何といっても石神井公園ですね。晴れた日は毎日、2時間程度は散歩に行きます。四季折々の花や野鳥、見事な樹木など、いつも新しい発見を与えてくれます。普段はパソコンの前に座りっぱなしなので、ストレス解消にも役立っています。

――現在、85歳とのことですが、いつまで続けますか。

下河 私が生きている間は続けていきたいですね。私達は微力ではありますが、石神井が少しでも住みよい街になって欲しいのです。街づくりは、50年先を見据えやるべき息の長い取り組みです。だけど諦めるわけにはいかない。将来を担う世代のためにやっていきたい。

（聞き手・阿部純一）

記念号には同会の20年間の活動や様々な人々からの祝いの言葉が掲載されている

お気に入りの場所は何といっても石神井公園

バスと人が混在する商店街もあと少しで解消へ

練馬新聞 令和3年3月20日号 掲載紙！